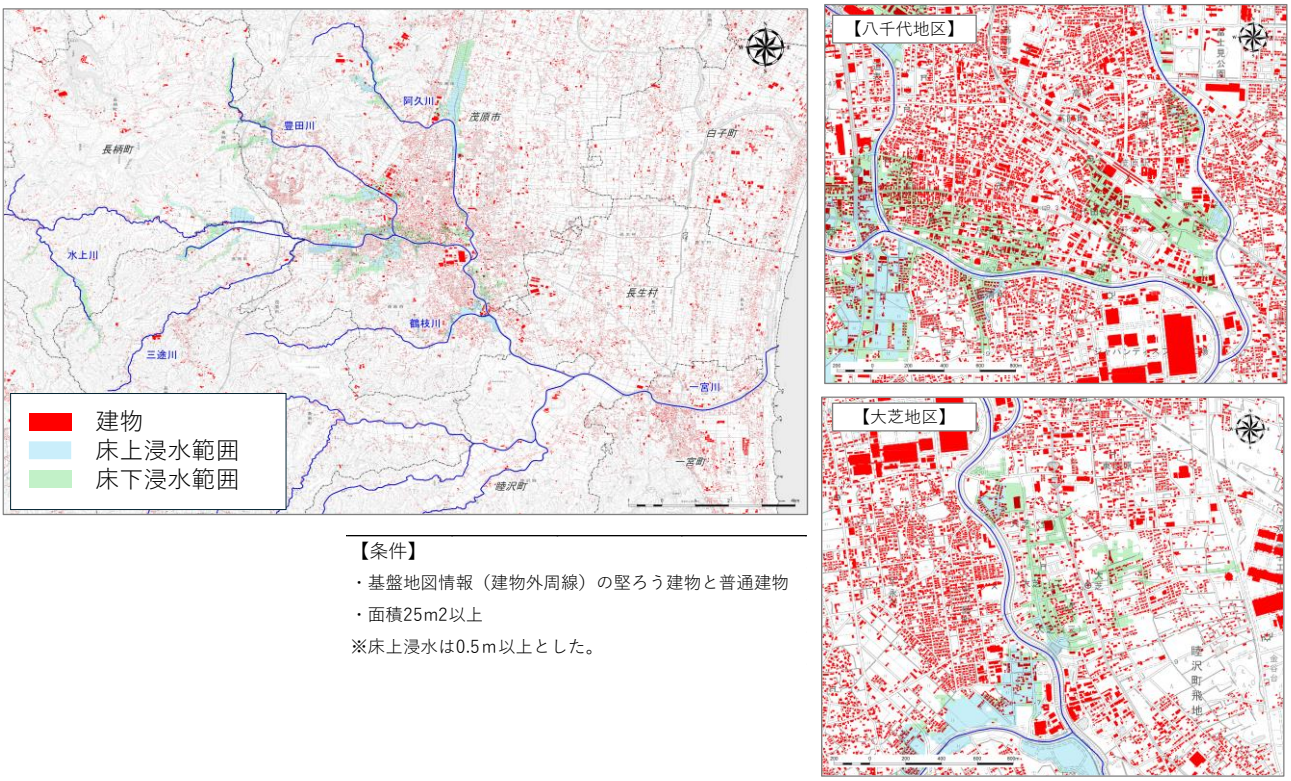


【条件】

・基盤地図情報（建物外周線）の堅ろう建物と普通建物

・面積25m2以上

※床上浸水は0.5ｍ以上とした。

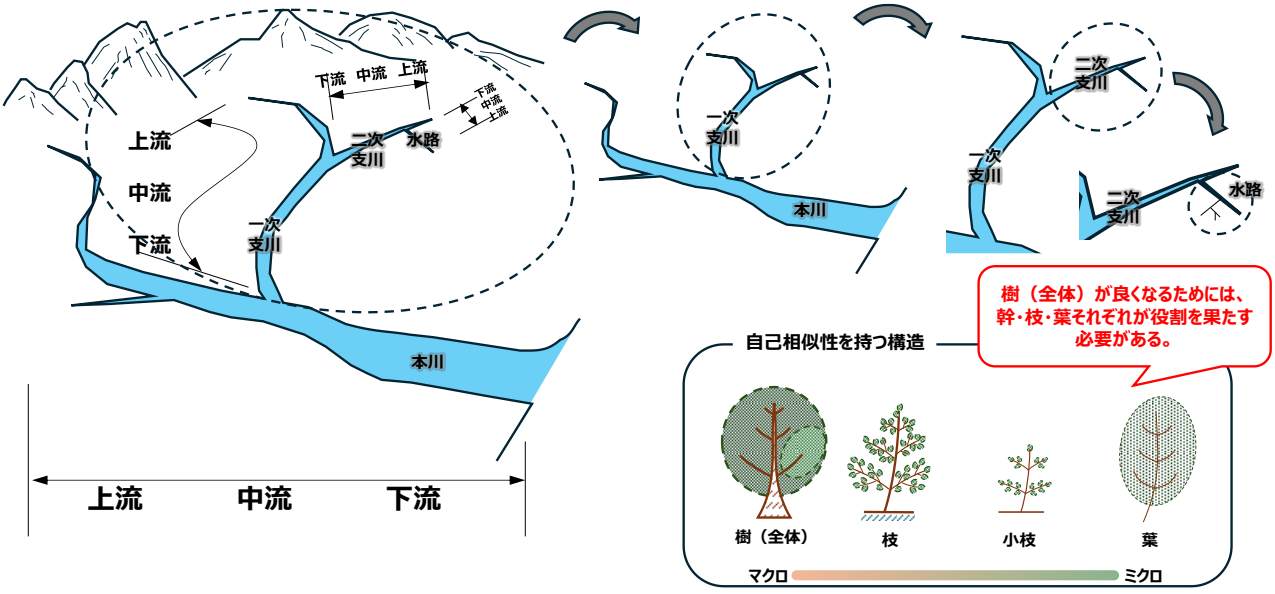


図 6-13 R5.9 洪水に対する効果-残余する浸水リスク①

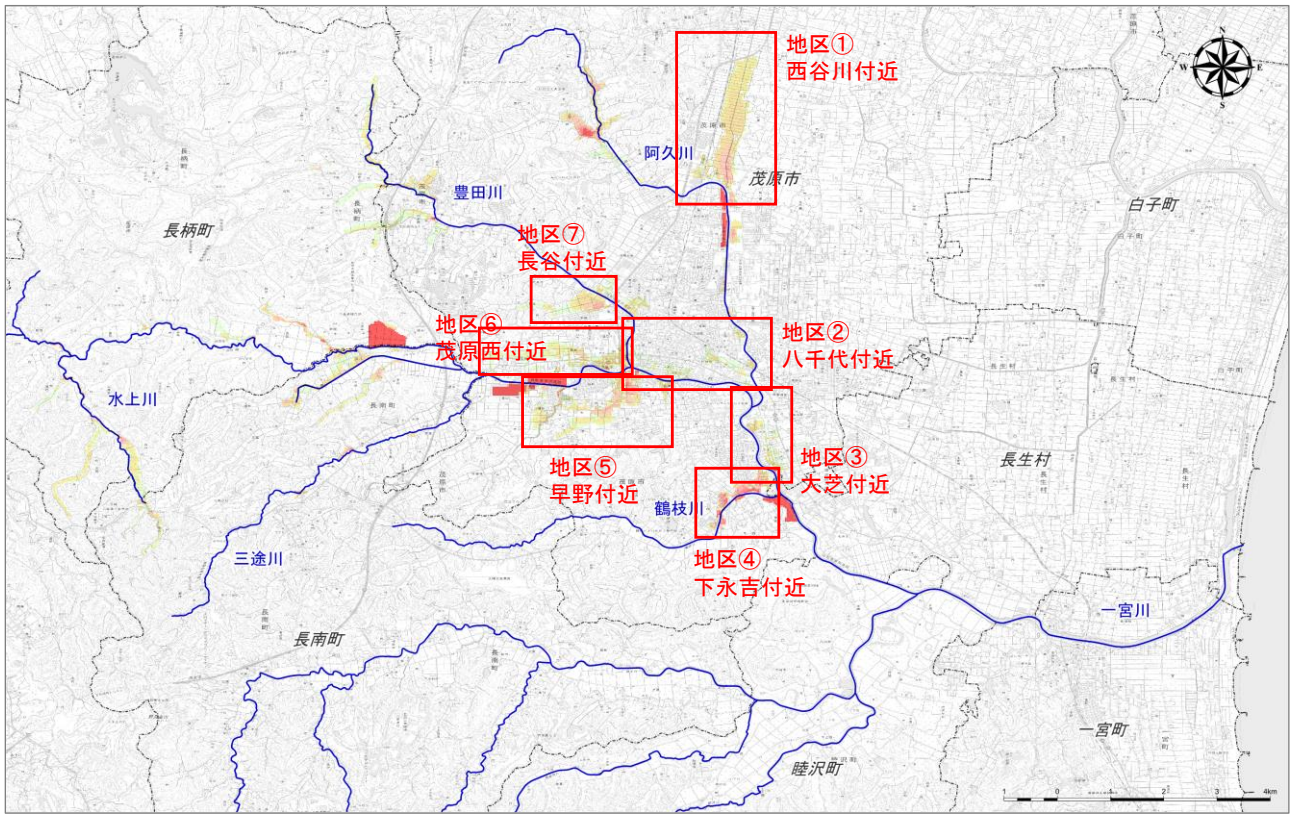


図 6-14 R5.9 洪水に対する効果-残余する浸水リスク②

R11時点の残余リスク（①阿久川地区）

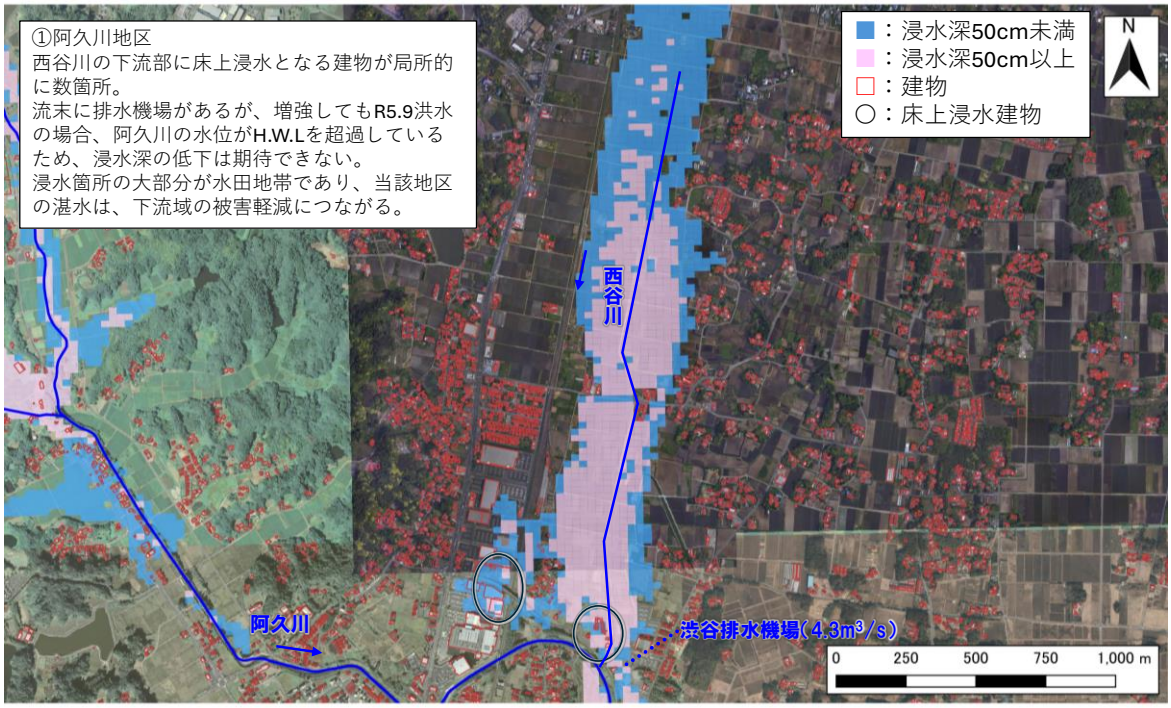


図 6-15 R5.9 洪水に対する効果-残余する浸水リスクの地区特徴

R11時点の残余リスク（②八千代地区）

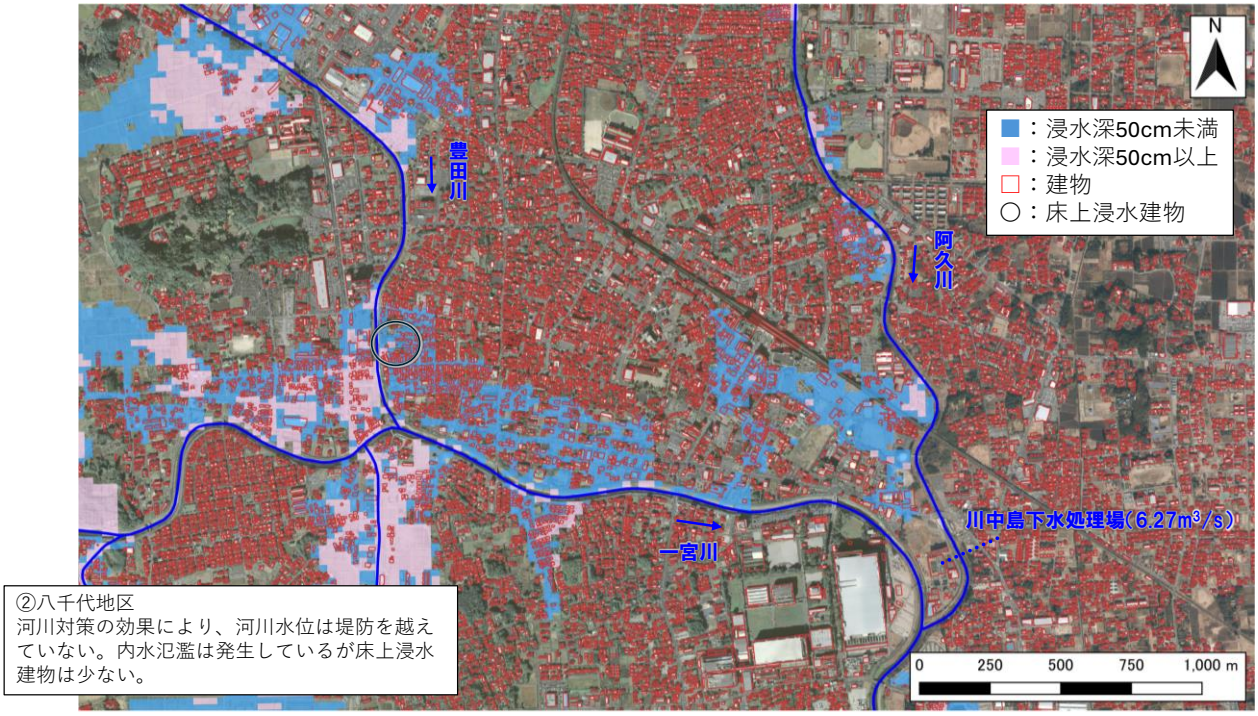


図 6-16 R5.9 洪水に対する効果-残余する浸水リスクの地区特徴

R11時点の残余リスク（③大芝地区、④鶴枝川地区）

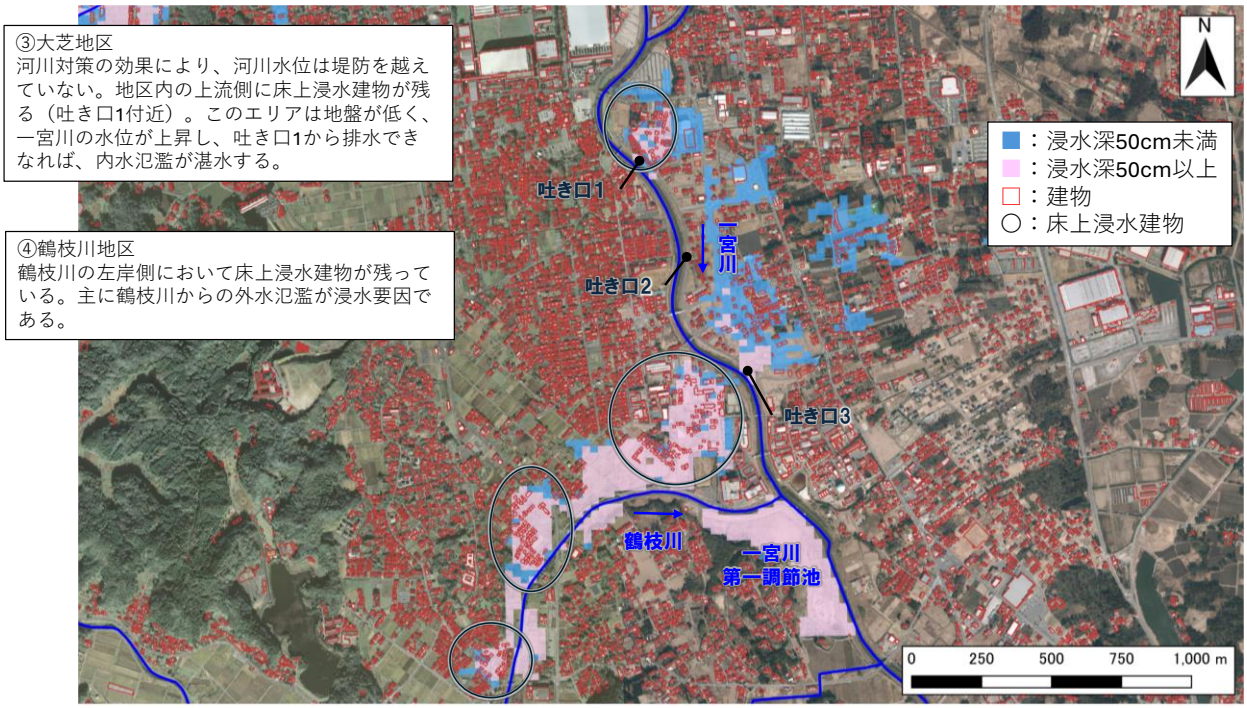


図 6-17 R5.9 洪水に対する効果-残余する浸水リスクの地区特徴

R11時点の残余リスク（⑤梅田川地区）

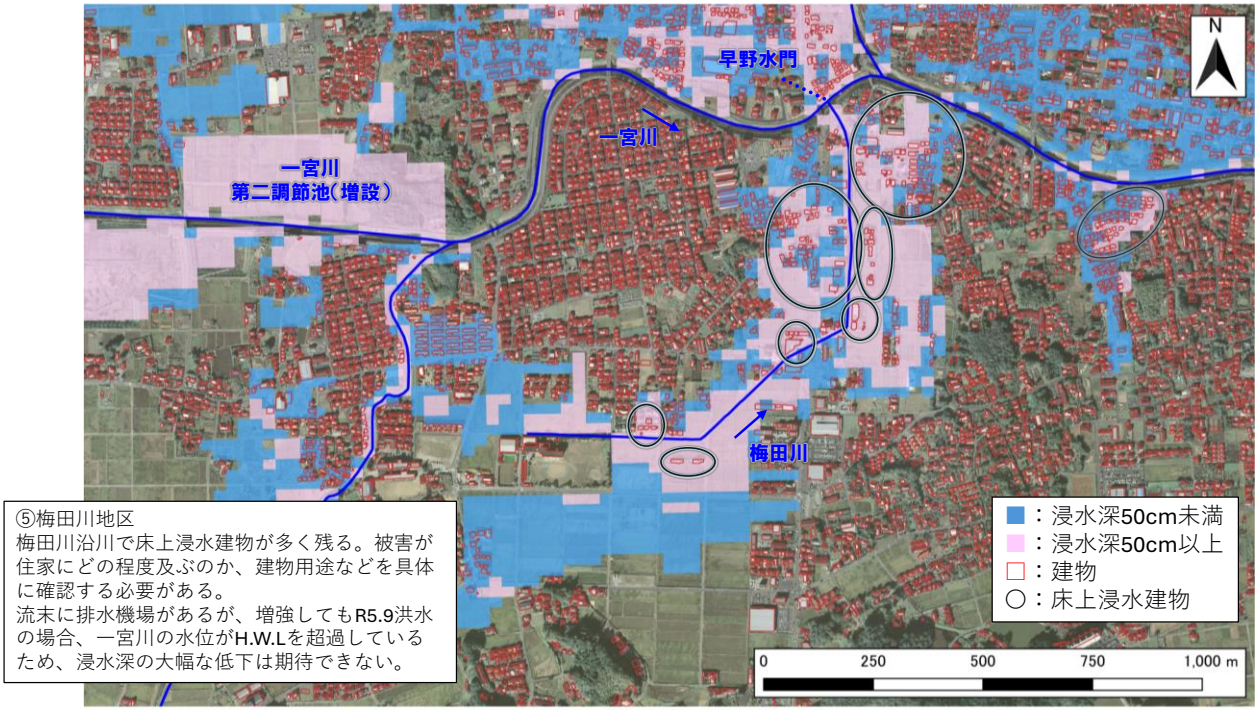


図 6-18 R5.9 洪水に対する効果-残余する浸水リスクの地区特徴

R11時点の残余リスク（⑥茂原西地区、⑦豊田川地区）

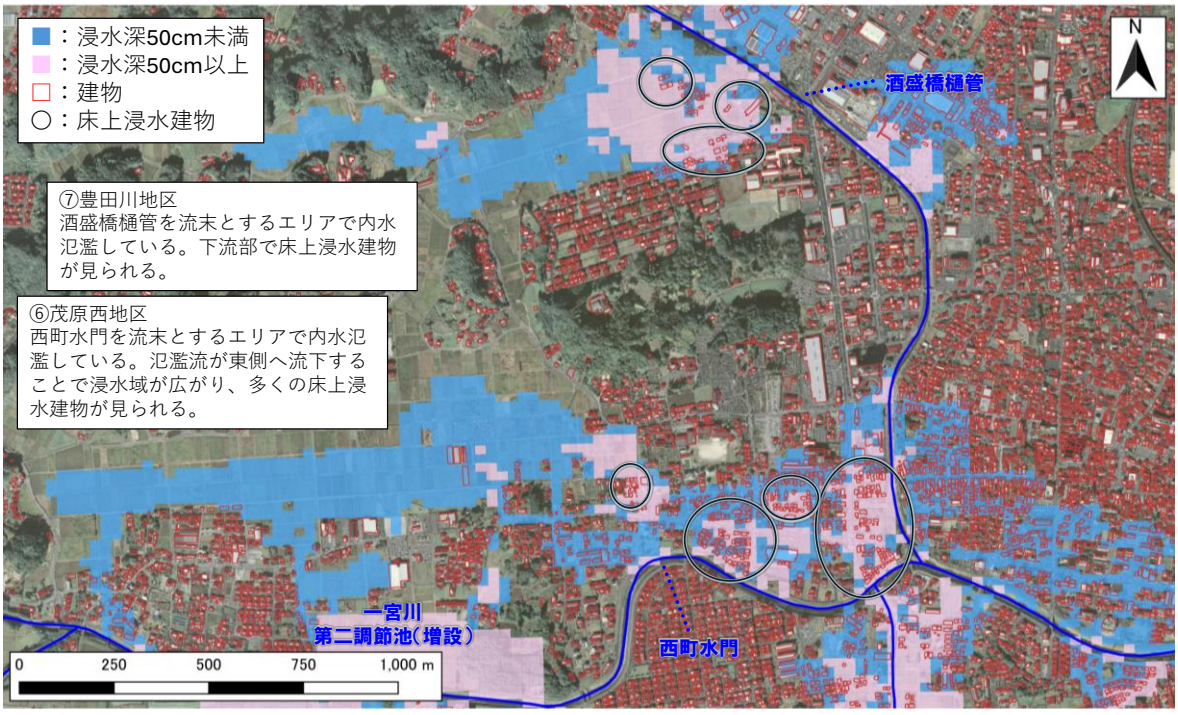


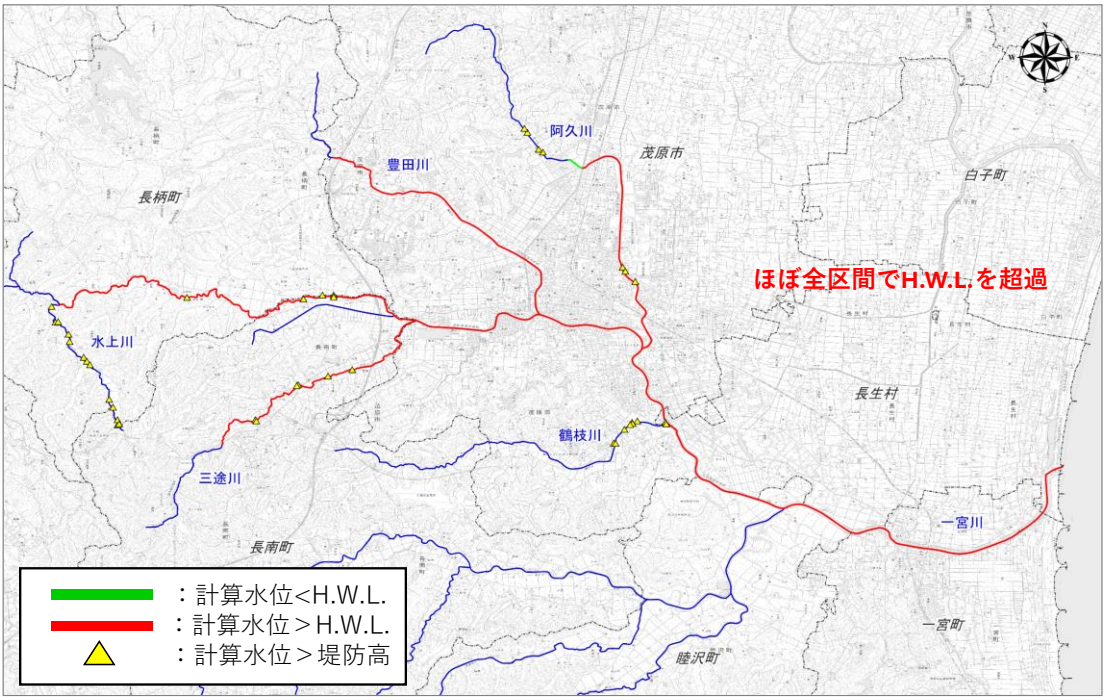
図 6-19 R5.9 洪水に対する効果-残余する浸水リスクの地区特徴

6.3.4. 様々な降雨パターンに対して、流域全体のリスク低減

流域全体のリスク低減の観点から、現在進めている対策後に、令和元年降雨及び令和 5 年降雨を外力として、上流側ブロックの壁立て計算などを行うことにより、破堤リスク等を確認した。

R11時点の残余リスク　　［R5.9洪水の時の河川水位］

【河川水位がH.W.Lを超過している区間】
・越水氾濫しないだけで、破堤のリスクは引き続き残る。



R11時点の残余リスク　　［R5.9洪水の時の河川水位（破堤）］

【破堤した場合の浸水想定図】
・破堤計算は河口から豊田川合流点（13.6k）までの左右岸を対象に、概ね1kmに1箇所とする。

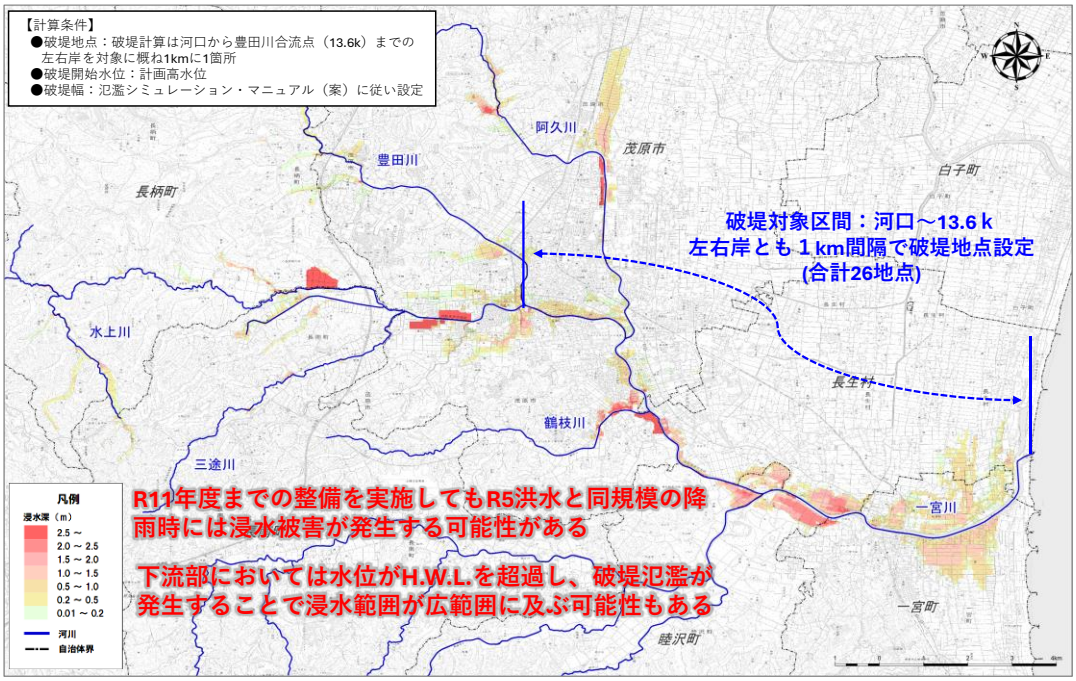
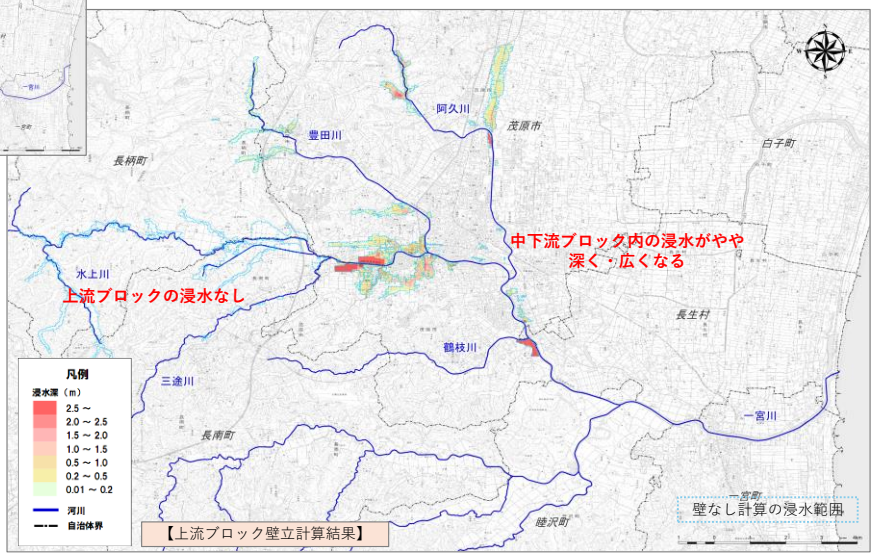


図 6-20 河川整備効果-残余する浸水リスク③

R11時点の残余リスク　　［R1.10洪水の時の上下流バランス］

【R11時点における氾濫の下流への影響：上流ブロックの河川から氾濫しないような条件（壁立て計算）で計算し、R11河道条件と比較】

・R1.10洪水を対象に上流ブロックを壁立てとした氾濫解析を実施



自治体名	浸水面積(ha)					
	壁なし			壁立て		
	床上	床下	壁なし	床上	床下	壁立て
長南町	44	44	87	0	0	0
長柄町	68	100	168	2	30	31
茂原市	111	215	326	128	227	354
長生村	0	0	0	0	0	0
陸沢町	0	0	0	0	0	0
一宮町	0	0	0	0	0	0
合計	222	359	581	129	256	386

、中流・下流でも上流・中流での氾濫の恩恵を受けていることを示す。

「上流」と「中流・下流」の関係

【R11時点における氾濫の下流への影響：上流ブロックの河川から氾濫しないような条件（壁立て計算）で計算し、R11河道条件と比較】

・R1.10洪水を対象に上流ブロックを壁立てとした氾濫解析を実施

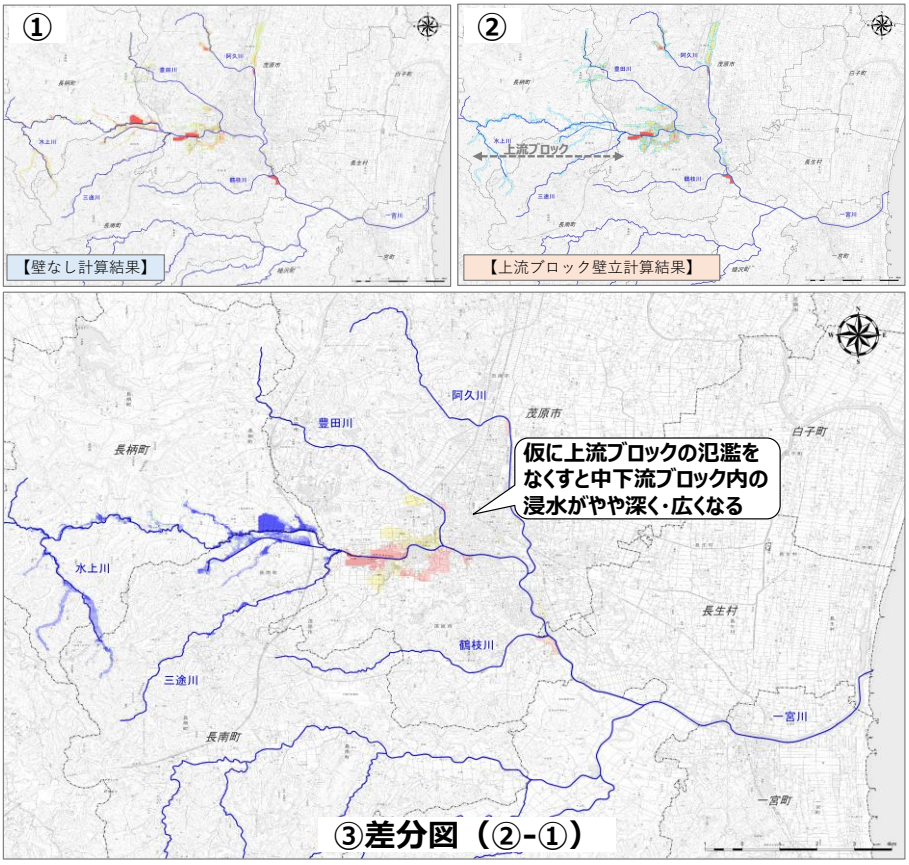


図 6-21 河川整備効果-残余する浸水リスク③'